物ノモントヽ云ニ、文ノ字ヲ用ル常ノ事也、アヤトヨム、アヤハ卽モンナレバ、子細无ケレ共、委ク云バ、糸篇ノ紋ノ字ヲ用ベシ、物ノモンヲバ織出セルガ故ニト云々、抑幕紋事、不可有際限歟、頗荒涼ノ至リナレ共、隨見及註之、但シ桐塔等ノ易知字ヲバ不及申ニ、

木瓜　輪違　瓜紋　三鱗形又色子方　四目結　粼斯同　巴　角巴　杏葉　来穀或椿葉　中黑　櫻櫚丸又棕櫚　裙紺　引兩筋　菱　澤瀉　松皮菱　輪子又輪鼓　鉸具又鋏具　蝶圓舍　又廬　直違　傍折敷　團扇又打敷　唐傘又唐笠　帆懸船　菰又瓜　酢漿　玳瑁龜甲

〔三内口決〕一幕事

尋常に用候幕は、家紋等、公家武家之差別無之候、

〔曾我物語八〕やかたまはりの事

みちにて十郎○曾我祐成申やう、わどの○祐成弟時致はやかたへかへり給ふべし、二人つれては、人もあやしく思ひなん、すけなりばかりゆきて、やかたのあんない見てかへらんとて、たちばかりもたせ、やかた〳〵をめぐりけり、思ひ〳〵のまくのもん、こゝろ〴〵のやかたのゑだひ、なか〳〵ことばもおよばれず、こゝに二ツもつかうのまくうちたるやかたあり、たがまくやらん、これはわれらがいへのもんなり、御てきとなりほろびぬ、いとうとなのるものなければ、此まくうつべきものなし、たれなるらんとふしぎにて、たちよりまくのものみより見いれければ、かたきさへもん○工藤祐經がやかたなり、

〔豫章記〕抑當家幕紋事、先祖三並、夷國退治ノタメニ、日本ヨリ大將ニテ被渡ケル時、○中略其時幕ノ紋一瓢也、

〔太平記七〕千劔破城軍事

城ノ大手ニ、三本唐笠ノ紋書キタル旗ト、同キ文ノ幕トヲ引テ、是コソ皆名越殿ヨリ給テ候ツル